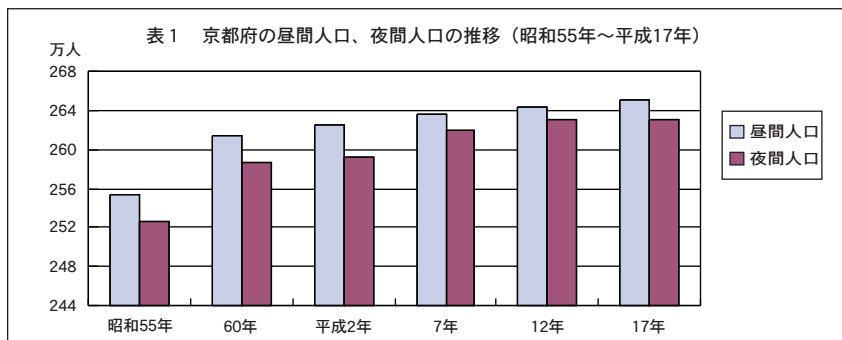


昼間人口・夜間人口

本年10月1日は、5年に1度の国勢調査が実施されます。日本に住んでいるすべての人を対象として行い、人口・世帯の実態を明らかにする統計調査です。

調査結果でわかることの1つの項目に、昼間人口というものがあります。



昼間人口とは、従業地・通学地による人口のことで、地域の防災計画などの策定に不可欠なデータとなっています。前回、平成17年国勢調査の結果では、京都府の昼間人口は265万1073人です(表2-1)。平成12年結果と比べると8522人(0.3%)増加しており、昭和55年からみると調査ごとに増加を続けています。

また、夜間人口(常住人口)は263万868人となっており、昼間人口は、2万205人の流入超過となっています(表2-2)。昼夜間人口比率は、昭和55年以降減少していましたが100.8%と増加に転じました(表2-3)。

府内市町村別、昼間人口[表2-1]・夜間人口[表2-2]・昼夜間人口比率[表2-3] (いずれも上位5位)

表2-1			表2-2			表2-3			
順位	市町村名	昼間人口(人)	順位	市町村名	夜間人口(人)	順位	市町村名	昼夜間人口比率(%)	増減(%)
1	京都市	1,582,980	1	京都市	1,460,688	1	久御山町	173.6	2.1
2	宇治市	162,717	2	宇治市	189,409	2	福知山市	110.8	0.2
3	舞鶴市	91,101	3	舞鶴市	93,304	3	京都市	108.4	△0.5
4	亀岡市	79,449	4	舞鶴市	91,464	4	宮津市	107.0	0.5
5	福知山市	75,039	5	城陽市	81,607	5	八木町(旧町名)	106.1	10.9
全体	京都府	2,651,073	全体	京都府	2,630,868	全体	京都府	100.8	0.3

府内市町村別にみると、昼間人口は京都市が最も多く158万2980人で府人口の半数を大きく超えています。次いで、宇治市、舞鶴市と続きます。夜間人口の多い上位市町村は、京都市、宇治市、亀岡市となっていますが、上位のうちで京都市以外は夜間人口が昼間人口を上回っています。昼夜間人口比率が高い結果となった市町村は、久御山町が173.6%と突出して高く、ついで福知山市、京都市となっています。

一般的に、都市部では昼間人口の方が多いいわれていますが、府の昼間人口の多数を占める京都市において昼夜間人口比率が0.5%減になる一方、府全体の昼夜間人口比率が0.3%増となったということは、京都市以外の自治体の都市化が進んだということがいえるのではないのでしょうか。

平成17年調査後、市町村合併が進みましたので、この5年間に、昼間人口がどう変化し、今後の防災計画などにどのように反映されていくのか、大変興味深いものがあります。

参考：昼夜間人口比率とは、夜間人口100人当たりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

注：表1、2は年齢「不詳」の者は含まない。 資料：平成17年国勢調査(総務省)